



岡山大学記者クラブ
文部科学記者会
科学記者会 御中

平成29年9月6日
岡山大学

統合失調症患者はがん検診受診率が低い

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学の藤原雅樹医員ら、岡山県精神科医療センターの児玉匡史部長ら、東北大学の中谷直樹准教授、国立がん研究センターの内富庸介部門長らの共同研究グループは、統合失調症患者を対象にした調査を実施したところ、統合失調症患者のがん検診受診率が極めて低いことを明らかにしました。

統合失調症患者は一般住民と比べて平均余命が短く、その健康格差が大きな問題となっています。がん検診は健康増進にとって重要な予防医療ですが、わが国では統合失調症患者のがん検診受診率は不明のままです。

本調査は、統合失調症患者の過去1年間における年齢調整後のがん検診受診率（乳がん、子宮頸がんは過去2年）が、大腸がん25.1%、胃がん20.6%、肺がん31.1%、乳がん25.6%、子宮頸がん20.0%であることを明らかにしました。これは、一般住民の約2分の1の受診率です。また、統合失調症の重症度/機能障害度が重いほど、がん検診を受診していないことも明らかとなりました。本研究成果は9月6日（米国東海岸時間）、学会誌「*Psychiatry and Clinical Neurosciences*」に掲載されます。

健康格差を解消するためには、統合失調症患者に対して、がん検診受診の勧奨、受診支援等を含めた健康増進の支援が重要です。

<業績>

本共同研究グループは、岡山県精神科医療センターへ1年以上通院している20-69歳の統合失調症患者を対象に健康に関する質問紙調査を実施。適格基準を満たし、調査対象として選ばれた420人のうち、350人（83.3%）が調査に回答しました。調査では、がん検診受診対象年齢の患者に対して平成27年度における大腸・胃・肺がん検診受診の有無、平成26-27年度における乳・子宮頸がん検診受診の有無を尋ねました。

その結果、年齢調整後の受診率は、大腸がん25.1%、胃がん20.6%、肺がん31.1%、乳がん25.6%、子宮頸がん20.0%でした。これは、参考となる平成25年度の国民生活基礎調査のデータから算出した岡山市一般住民のがん検診受診率（それぞれ、40.7%、45.1%、52.2%、45.7%および47.1%）の約2分の1の受診率でした。また、統合失調症の重症度/機能障害度が重いほど、がん検診を受診していないことがわかりました。

<背景>

統合失調症は、約100人に1人が発症する頻度の高い病気です。一般住民よりも早期死亡率が高く、10~20年寿命が短いという健康上の格差が世界的に問題となっています。統合失調症の発症は社会経済状態、ライフスタイルを変化させる引き金となり、医療へのアクセスの障害等も影響して身体疾患による自然死のリスクが高まると考えられています。



PRESS RELEASE

一方、がんは、主要な死因の1つですが、統合失調症ではさらに一般住民よりもがん死亡率が高いことが報告されています。がん死亡率の減少には、がん検診による早期発見・早期治療が重要です。わが国ではがん対策推進基本計画で、がん検診の受診率を5年以内に50%（大腸、胃、肺がん検診は当面40%）を目標としてさまざまな対策がなされました。

海外では、統合失調症患者のがん検診受診率は、一般住民と比較して低いことが知られており、公衆衛生上の課題として認識されています。一方で、わが国では、統合失調症患者のがん検診受診率は不明のままです。そこで、本研究では、統合失調症患者のがん検診受診率を明らかとすることを目的とした調査を実施しました。

<見込まれる成果>

今回、わが国においても、統合失調症患者の低いがん検診受診率が明らかになりました。統合失調症患者は、これまで実施されてきたがん検診受診率向上のためのさまざまな施策の恩恵を十分に受けることができていないという結果でした。統合失調症患者を対象としたがん検診受診の勧奨や受診支援等の強化が急がれます。

<論文情報等>

論文名： Cancer screening participation in schizophrenic outpatients and the influence of their functional disability on the screening rate: a cross-sectional study in Japan

「外来通院中の統合失調症患者におけるがん検診受診率及び、受診に対する機能障害の影響：日本における横断研究」

掲載誌： *Psychiatry and Clinical Neurosciences* DOI: 10.1111/pcn.12554

著者： 藤原雅樹、稲垣正俊、中谷直樹、樋口裕二、藤森麻衣子、林原千夏、宋龍平、掛田恭子、児玉匡史、内富庸介、山田了士

（所属：順に、岡山大学、岡山大学、東北大学、こころの医療 たいようの丘ホスピタル、国立精神・神経医療研究センター、岡山大学、岡山県精神科医療センター、高知大学、岡山県精神科医療センター、国立がん研究センター、岡山大学）

本研究は、岡山県健康づくり財団研究助成、ノバルティスファーマ研究助成、厚生労働科学研究費補助金がん対策推進総合研究事業（がん政策研究事業）（課題番号：H26-がん政策一般-002）の助成を受けて実施しました。

<お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

精神神経病態学教室

藤原 雅樹

（電話番号）086-235-7242



がん検診受診率

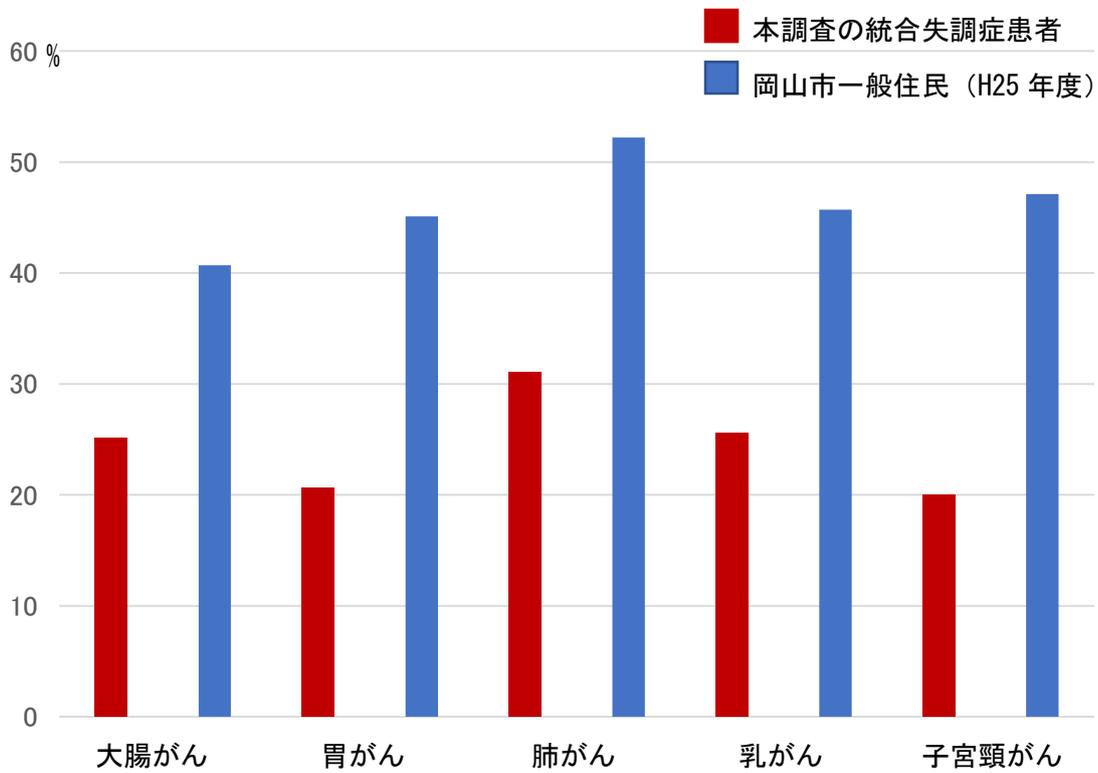


図 1. 本調査の統合失調症患者と、岡山市一般住民のがん検診受診率（年齢調整後）の比較